



# 学校だより 3月号

石川小学校 学校教育目標  
育てます。「石川魂」

令和3年2月28日  
横浜市立石川小学校  
校長 寺園 淳

## それぞれのまとめ

校長 寺園 淳

自然園の梅の木が白やピンクの花を咲かせ、春の訪れを感じさせています。校庭からはティーベース（野球型ボール運動）を楽しむ4年生の元気のよい声が校長室に聞こえてきます。子どもたちは学校生活のまとめの時期を迎えています。

6年生は卒業に向けての「学習」に取り組み始めました。それは小学校生活のまとめとして、様々な取組を自分たちで立案し、実現させていくことです。しかし、そこには一つのハードルがあります。それは校長の私を納得させ、実施の許可を得なければならないということです。6年生の実行委員から学年集会で綱引きを行いたいと申し出がありました。その時校長から実行委員に対し「綱引きを行うときは密になると思うんだけど、この時の感染症対策はどのように考えていますか。」という質問が返されます。数日後、実行委員が校長を訪ねてきました。「先日の校長先生の質問に答えます。綱を引くときに密にならないように、綱の左右に分かれて交互に綱をもつようにします。これで隣り合わずに綱が引けます。もちろんマスクを着けて行います。」と回答してきました。私も大きくうなずきました。これで実施の許可が得られたこととなります。6年生一人ひとりがそれぞれの学びに向け、計画を立て、互いにアイデアを出し合い、協力しながら実現に向けて準備を進めています。これが学校教育目標「石川魂」が目指す主体的な学びだと考えます。

私は子どもたちが卒業式を「小学校生活最後の授業」として学んでくれることを期待しています。立ち姿や返事の声、移動のタイミングなど今まで身に付けてきた力を基に、その場で判断しながら参加する授業だと考えます。また、卒業生一人ひとりが、6年間に培った力を背中で見せる姿から、5年生と4年生が来年度の石川小学校のリーダーとして学ぶ場でもあります。しかし、コロナ禍により従前の卒業式が実施できないために、この大切な学びが途絶えてしまいます。だからこそ5年生（特に）、4年生には自分たちで考え、友達と協働することで来年度の石川小をリードしてほしいと願っています。

2月はこれまでの学習のまとめとして、様々な表彰がありました。その中の一人、2年生佐藤 紬（さとう つむぎ）さんが、第66回青少年読書感想文横浜市コンクールにて、毎日新聞社横浜支局長賞を受賞しました。佐藤 紬さんの想いを紹介します。

ぼくには大切な友だちがいるから、友だちがいないダイ君に友だちができてうれしかったです。やさしさはぐるぐる回っていることを知ってすごいなと思ってかんそう文を書きました。ぼくも友だちにやさしくしたいです。

本年度も残すところ一か月となりました。保護者の皆様、地域の皆様には子どもたちのためにご理解・ご協力を賜り、感謝申し上げます。教職員一同、まとめに向け、力を注いでまいります。よろしくお願いいたします。